

夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう

令和3年9月28日(火)、北広島町内の6年生児童(132名)を対象に“北広島ふるさと夢プロジェクト事業「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」”を開催しました。

この事業は、北広島町・北広島町教育委員会と各小学校が次のことを目指して取り組んでいる事業です。

- 植松電機 植松努代表取締役の講演を通して、夢をもち実現することの素晴らしさを学ぶ。
- ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。

今年で7年目を迎え、これまでも小学校6年生が学びそして体験してきており、子供たちがとても楽しみしている事業です。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年も北海道在住の植松先生と町内8小学校をWEB会議システムでつなぎ、リモートでの講演会としました。

講演会の概要や、各小学校でのロケット製作・発射の様子等について紹介します。

植松努先生講演会 演題「思うは招く～夢があれば、なんでもできる～」

植松先生は、小さい頃からの夢であるロケット製作を実現するために、ロケットとは関係のない小さな会社で夢と希望を持ってロケットづくりを始められ、その後、幾多の困難を乗り越え、民間では偉業ともいえる宇宙を飛ぶロケット開発を成し遂げられました。子供達は植松先生のユーモアと感動のある話に引き込まれ、将来への夢や希望をもって努力することの大切さを学び、他では得ることができない多くの力強い「言葉」をいただきました。その一例を紹介します。



- 人の出会いには意味がある
- 人は足りないからこそ助け合える
- 奇跡を起こせるキーワード 「ちがうはすてき！」
- 失敗はデーター。乗り越えたら力になる
- 失敗をしないためにを突き詰めると、何もできない、成長もできない、考えられなくなる。
- 自分の夢をどんどんしゃべろう
- 未来はわからない。だから未来をあきらめる理由はない。
- 「どうせ無理」は自信と可能性を奪う最悪の言葉
- 伝記を読もう。つらいことの乗り越え方が書いてある。



私は、植松さんの話を聞いてとても感動しました。私の将来の夢は、とてもお金がかかると分かっていたからあきらめていました。でも、「未来はわからないのにあきらめる必要はない。」という言葉聞いて、もう一度夢を目指して頑張ってみようと思いました。(芸北小)

講演を聞いた児童の感想



植松さんの話から、「夢を持ち、実現させること」のすばらしさを学びました。私には夢があります。「それをかなえるのは無理かも」と思っていたのですが、今回話を聞いて「頑張ってみよう。」という気持ちになりました。これからも夢の実現に向けて頑張っていこうと思います。(大朝小)

《真剣に講演会を視聴する児童》

みんなで協力し、夢のロケット完成!

ロケットを作る時には、友達と協力しました。友達が丁寧に教えてくれてうれしかったです。ロケット作りがこんなに楽しいとは思っていませんでした。みんな笑顔だったので、作れてよかったと思います。私の夢を見てほしいという思いを込め、ロケットにはお世話になった人を描きました。(新庄小)



ロケット制作では、班の人たちと協力してできました。ロケットのパラシュートの折り方を教え合ったり、ロケットに色をぬる時も友達と話したりしながらできました。心の中で、「夢に向かって飛んでほしい。」と思いました。また、「飛んでいくな。」とすごくドキドキしました。(壬生小)

ロケット製作・発射の様子



ロケットが発射してからパラシュートが開いたときは、自分の中の何かがスッと消えてスッキリしたような気がしました。また、ロケットを飛ばすまで成功するか不安だったけど、飛んでからちゃんとパラシュートが開いたときは安心しました。(八重小)

ロケットを飛ばす前は、植松さんや植松さんの仲間みたいに上手に飛ばせるかとても不安だったけれど、飛ばした時はとてもうれしかったです。ロケットを打ち上げたら、なんだか自分の力がロケットの中に詰まっているように感じました。(豊平小)

児童のアンケート結果

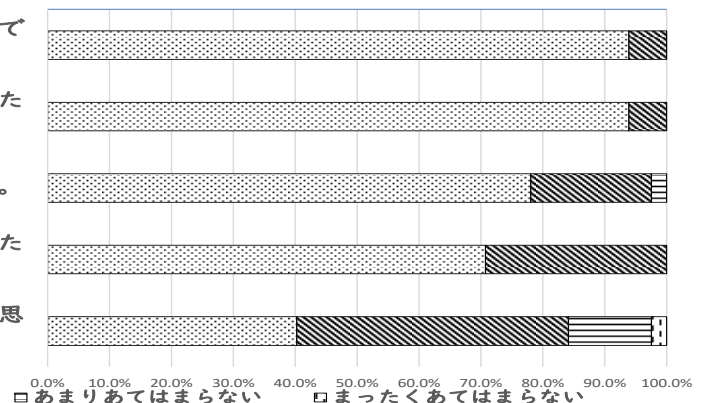
- 1 植松先生の講演会の話は、夢と希望を持つことができるよい話だった。
- 2 学校の友達といっしょに、楽しくロケットを作ったり打ち上げたりすることができた。
- 3 ふるさと北広島町が好きになった。
- 4 ふるさと北広島町を大切に思い、住んでいる人のために、自分にできることをしていきたいと思う。
- 5 これからもずっと北広島町で暮らしたいと思う。

□ たいへんあてはまる

■ すこしあてはまる

□ あまりあてはまらない

□ まったくあてはまらない



参加した児童のアンケートでは、「1 講演会の話は、夢と希望を持つことができるよい話だった」「2 友達と一緒に楽しくロケット作りをすることができた」「4 ふるさと北広島町を大切に思い、住んでいる人のために、自分のできることをしていきたい」が100%肯定的な評価でした。また、「北広島町が好きになった→97.6%」「5 これからもずっと北広島町で暮らしたいと思う。→84.1%」という回答でした。昨年以上に高い数値となっており、ふるさと北広島町への愛着心が育ってきていると言えます。

コロナ禍にあって、今回も開催が危ぶまれる中、プロジェクトの企画・運営にご尽力いただいた北広島町・北広島町教育委員会の皆様、また運営に携わっていただいた多くの皆様に心より感謝申し上げます。

